

# HUG

ひまわり新聞 特別号



われはふくしまなり

Hirohaku Yoshinari

弊法人設立当初よりプロジェクトの推進と復興のために尽力されてきた、副理事長の吉成洋拍が、令和3年5月12日午後4時42分にて急逝いたしました。

皆様からいただきました生前のご厚誼に心より感謝申し上げます。

2011年3月11日に発生しました東日本大震災後、  
避難所での炊き出しボランティアをされ、  
チームふくしまメンバーと「福島ひまわり里親プロジェクト」を立ち上げ、  
理念「For you For Japan」のもと、  
福島を「同情的の街から尊敬の街にする」と突き進んでおられました。

また、近年は障がい者雇用や子ども食堂への参画など、  
誰かのためになる取り組みを積極的に取り組まれていました。

まだまだやりたいこと、実現したいことが沢山ありました。  
その想いをしっかりメンバー一同引き継いで今後取り組んで参ります。



#### <目次>

- 1 はじまり
- 2 No one will be left behind
- 3 福島が大好きだ！  
幸せは掴むものじゃなく気づくもの
- 4 妄想したらもう、そうするしかない
- 5 Memories with HUG
- 25 新聞掲載
- 27 About HUG

\*「ハグちゃん」という愛称

HUG＝ハグ、洋拍(ひろはく)→はく→ハグ 初めは「ハグハグ」と呼ばれていたが、今では「ハグちゃん」が定着。また、日本ハグ協会の活動にも共感しハグと名乗るきっかけとなった

## はじまり

できるできないより、やるかやらないか  
プラス発想で前向きに他人を喜ばせる  
福島県全体の社会貢献の為に行動  
何があるうと人生を楽しむ

何のためにそれをやるのか日々考える  
報酬は感動 ボランティア精神で活動

僕はこのイベントを

「ふくしま伝説」になるような凄い

感動のイベントにしたいのです！

それが達成された時、福島から日本を  
本当に元気にできると確信しています。

「福島のような、小さな街でも  
こんなに凄い事が出来るんだ！」

そう思ってもらえれば、

日本全国にこのようなイベントを  
開催する人が増えてくるはず！！

だから絶対成幸させたいのです！

今回「ふくしま夢まつり実行委員会」を  
結成しました。

福島で生かされていることを感謝して  
いるメンバーで構成されています。

僕たちに是非、皆様のお力をお貸し  
ください！僕たちの「想い」を一緒に  
感動共感してください！



ひまわり甲子園 2019 全国大会は、実行委員長 吉成さんのたつての希望により、福島市のあづま総合体育館で開催し、豚汁とおにぎりが参加者にふるまわれました。

# No one will be left behind

誰も一人にしない

YouTube 一杯の豚汁 (2011.10.14)

福島市内にて、3.11の震災から炊き出しを始めた。その炊き出しの中からの「出逢い」と「出来事」でスイッチがONに入ったストーリー

▶ <https://youtu.be/bLhhcQg4kXc>



2011年3月14日、大震災から4日目の夜。僕の人生観が大きく変わる出来事が起こった。その日は、僕にとって炊き出しのボランティア3日目。昼間から準備していた1200人分の豚汁をつくり、みんなに配給していたんだ。

正直、僕も料理人のはしくれだから、もっと豪華なものを提供したいなって思ってたけど、1200人分の食材を考えるとこんなもんしかできないって：ちよつと申し訳ないくらいに感じていたんだ。

ほとんど肉の入っていない「豚汁」という名の野菜スープ：僕の列に並んでくれてた人に、次々に豚汁を配っている、そのばあちゃんは僕の目の前に現れたんだ。

「おい！兄ちゃん！オレの家は津波で流されちゃったんだ。じいちゃんもどこさいったが、わかんねえ。もう、何もかも無くなっちゃったからよ、その豚汁、大盛りにしでくれ。それくらいしてもらっても、バチあたらんべよ」

正直一瞬、悩んだんだよね。なんか気難しそうな頑固なばあつて感じだったし。可哀想だけど。一人分の「大盛り」を

認めると1200人分の豚汁がみんなに回らなくなるかもしれないから。

「みなさー！ん！すみませーん！このばあちゃん、津波で家全部ながされちゃったみたいで」。可哀想だから、特別に豚汁大盛りでよそつてあげてもいいですかあ〜？」

僕はありつたけの大声で、後ろに並んでいる人たちに聞いてみたんだ。ちよつとふざけた感じだね(笑)

そしたらみんな、笑顔で一斉に首をタテに振り始めたんだ。

「ばあちゃん！よがっだね！！大盛りでいいってさ！」

気持ちいいくらいみんなが首をタテに振るもんだから、僕も満面の笑みで、「これでもか」つてくらい、なみなみの豚汁を注いであげたんだ。

「ほいっおまたせ！！！！超大盛りの豚汁だよ！！！！」

そう言つて、ふとその頑固そうなばあちゃんの顔を見ると、満面の笑みで穏やかな笑顔でも、ちよつと涙目で：

「おう！兄ちゃん！あんがとよ。この豚汁一杯でよ、全てを

チャラにしてあげるわ。オレの財産全部と豚汁：交換だな！！また明日から元気に生きるべ。震災あつたけどよ。兄ちゃんとお逢えたからよかつた」

その瞬間なんかもう：僕は無我夢中でそのばあちゃんに抱きついていったんだ。

「絶対お互い頑張るべな。ばあちゃん、ありがどう、ありがどう。頑張るべな。」そう言つて僕は、そのばあちゃんとハグをしながら、2人で号泣し励ましかつてたんだ。：

ばあちゃん、僕の方こそばあちゃんとお逢えて良かったよ。ありがどう。僕にとつては質素で、ろくに肉も入つてない、たかが豚汁一杯。ばあちゃんにとつては、家一軒に相当する大盛り豚汁。

あのね、あの時僕たちが流した涙は、「うれし涙」だったんだよ。

人の優しさに触れあつた感動のキャッチボールだった。ほんの一瞬の出来事だったけど、僕にとつて一生忘れられない出来事になった。たつた1杯の豚汁が、僕の生き方を、価値観を変えていったんだ。

ばあちゃん：ありがと：

# 福島が大好きだ！

2011年3月。あれから間もなく5年が過ぎます。

当時、僕たち福島県民は、本当に未来が描けなくて。1年先とかじゃなく、明日どうなるんだろうという、そういう状況の中で、震災翌月の4月に久しぶりにこのメンバーで集まったんですね。

その時にどうすればいいんだろうって、本気で考えて、ない頭を振り絞って、そうして僕たちはこの「福島ひまわり里親プロジェクト」にたどり着きました。

その時にやっぱり避難すべきか、残るべきか。それぞれが本っ当に悩んで、その結果、みんなが「福島に残る」。そう決めました。それは、やっぱり、みんな福島が大好きなんですよ。僕も、この街に生まれたことに誇りを持っていました。

そういう想いの中、この福島のために何ができるかなって一生懸命ガムシヤラ。もう5年かもしれないし、まだ5年かもしれない。でもそこにあるのは「もうすぐ5年経つ」という、その事実だけなんですけど。

「福島が大好きだ！」その想いだけでこのひま



わりをつないできました。

そして、今日、ここに集まっている皆さまも最高のプレゼンをされてましたが、多分一人じゃできないんですよ。

皆さまも、これから家に帰ると最高の仲間が地元で待っていてくれ、その仲間たちと、これからまた最高の街をみんなで創っていくと思います。その手段がたまたまこの福島ひまわり里親プロジェクトなのかもしれないですが、今年も最高の物語が日本全国で生まれます。それは間違いないです。

本当に感謝しかないんですよ。依存じゃなく「支援」なんですよね。なんかお互いが支援をし合うというキャッチボール。

これを今まで5年間紡いできたつもりですし、これからも5年、10年、100年、ずっと全国の皆さまとお互いに協力し合って最高の街を、最高の日本を創っていきたいと思います。これからもよろしくお願い致します。

(ひまわり甲子園2016全国大会閉会宣言)

## 幸せは掴むものじゃなく気づくもの

「スイッチを押したら電気がつくとか、当たり前のことがあるがたいことなんだよ」って話しても、実際そこで理解するのは、難しいのかなって思ったりもするけど、僕の話聞いて、いつかあの時、変なおっちゃんやしやべったのはこれだったんだと思ってもらえたらいいな。

福島は日本一、いや世界一同情された街になってしまったかもしれないけど、僕たちが活動する際にいつも思ってきたのは、「世界一感謝にあふれた街」、そういう風に思ってもらえたらいいなこと。そう思ってた10年間活動してきたし、それはやっぱりこれからも変わらない。

やっぱり「人とのふれあい」そこが一番大事だなあと思ってるし、それって当たり前じゃなくありがたいこと。

愛の反対は無関心って言うけど、無関心でいるのではなく、人どう接していくのか、どれだけ人に与えられるかという想いを、福島から世界中にどんどん発信していきます。

(2020年8月インタビュー)



# 妄想したらもう、そうするしかない

震災直後は無我夢中でした。福島市内で飲食店を経営している仲間、講演会の開催などで一緒に活動している友達などに次々に声をかけ、福島市内で避難所になった体育館などで、炊き出しをしました。食料も物資もガソリンもない中でしたが、「何かやらないといけない」という気持ちが強かったです、同時に、みんな不安で苦しんでいました。明日のこと、未来のことが見えない、これからどうなるか分からないという不安。

そんな中で、誰かが言ったというわけじゃないけれど、「復興のシンボルとして、ひまわりがいいよね」という話になり、「そうか、放射能とひまわりか」と、わらをもつかむ思いで、福島ひまわり里親プロジェクトをスタートさせました。

その後、たくさんの里親さんが参加してくれたのは、夢のようです。本当に、最初はこれほど大きなプロジェクトになるとは、全く思っていませんでした。ただただ感謝でいっぱいのプロジェクトになっています。

震災と原発事故の後、福島は放射能で世界中で有名になってしまいました。「福島」という単語自体が、なんだかネガティブに捉えられているような状態もありました。「福島は、あわれみや同情の目で見られているかもしれない。でも、僕らが何かをやることで、『同情の街』から『あ

こがれの街』に変えることができるのではないか。世界中の人が『福島にきたい』と思うような街にすることができるのではないか」。そんなことが私たちの中から出てきました。今は、プロジェクトの理事たちがその一点で頑張っています。

2013年3月の「ひまわり甲子園」では、涙が止まりませんでした。「ありがとう」という言葉はキャッチボールの言葉なんだなあと思いました。「ありがとう」は、お互いに思って、伝えていく大切な言葉なのだ、ひまわり甲子園を通じて改めて実感しました。

全国でひまわりを育ててくださっている里親さんたちの活動はもちろん知っていたのですが、直接、福島に来ていただいて、どのように活動を続けてきたのか、ご本人から発表を聞かせていただいたら、胸が熱くなりました。「そんなにすごいドラマがあったのか。もっと頑張らないか」と思いました。里親さんからは「ひまわりの種を使って、福島を応援しているつもりだったのが、実はうちの地域が元気になっちゃいました」という発表もありました。

こうして活動させてもらいながら、私自身が元気をもらっています。そして、一人でも多くの方が、福島を応援団になってくれるよう、これからも活動を続けていきたいと思います。

(2014年インタビュー)





# Memories with HUG

吉成さんとのエピソードやメッセージなど、皆さんからお寄せいただいた声をまとめました。

大和田 勲 / 広野町  
(NPO法人チームふくしま)

吉成さんとの出会いは、「NPO法人チームふくしま」のメンバーとして仲間に入れて頂いたのがきっかけでした。

いつも明るくポジティブな人柄で会う人を笑顔にしてくれました。時には(いつも?)思いつかないような面白いアイデアを、目を輝かせながら語っていました。今日はどんな話をしてくれるのか、出会う度にワクワクさせられるのも吉成さんの魅力だと思います。

福島ひまわり里親プロジェクトでは、ひまわり甲子園というイベントを開催してきました。吉成さんは、ひまわり甲子園の実行委員長として、どうやったらみんなが楽しくなるのかを真剣に考えて、実際に行動してくれました。楽しむことを本当に大切にしている人なんだと、改めて感じました。一緒にイベントをやらせて頂いた時間が楽しかったし、共有した時間が持てた

のは、今の自分にとってかけがえない経験です。  
娘が小学5年の時、チーム

ふくしまの理事として一緒に活動をさせて頂きました。まさに私が大人ばかりの環境の中で、吉成さんは娘の事を気にかけてくれて、いつも声を掛けてくれました。「紗希い〜」と最高の笑顔とともに。いつも笑顔で話しかけてくれる吉成さんは、娘の目線に合わせ接してくれました。

大人に囲まれて活動をしている中で感じていた想いやプレッシャーも、お兄さんの存在である吉成さんとの時間が、娘をどれだけ楽しめてくれたことか、本当に有り難い存在でした。

娘たちは、一緒にオセロで遊ぶこともありましたが、最後まで勝つことはできませんでした。楽しいことは大好き、勝負も真面目に楽しんでました。手を抜いた人に勝つても楽しくないでしょう、といって子ども相手でも本気に楽しんでる姿が懐かしいです。  
吉成さん、ありがとうございました。

折笠哲也 / 会津若松市  
(NPO法人チームふくしま)

人の心に種を蒔く天才だと思います。あんなに老若男女数多くの人が本気で泣いている、そして笑っている葬儀は見たことないです。どんだけ人の人生を変えて救ってきただんですか(笑)。でも葬儀の全てが吉成さんらしかったです。

そういう私も震災後、心が折れそうになったときがありました。でもそんな時にスパーで「こんな時に買い占めてるなんて」と一番嫌であつたらう批判も受け止めながら避難者の方に豚汁を振る舞っていた姿で勇気をもらえました。

またその後の被曝しているかも知れない福島の子供達のためにホールボディーカウンターを寄付したい!と呼びかけたときに私の会社は倒産寸前だったので1円の寄付もできなかつた。普段から地域の為に!といいながらこんな時に何もできない自分。何のために学んできたのか?何のた

めに経営をしてきたのか?涙を流して悔しかったことを忘れません。

そのお陰で今の私がいて会社があります!経営者として真つ直ぐな志と稼ぐ力を両立させ、お金の出口は社会を良くする為に必ず使います!私も吉成さんに種を蒔かれた一人としてあの世で良い報告ができるようにこれからも「ニコニコ笑顔で命がけ」を合い言葉に全力で生き切ります!

詳しく書きませんが、あの時坊主にしてくれてありがとうございました。無理を聞いて頂き今でも感謝しています。あの出来事で私に諦めない心がセットされたと思います。私も死んだらしつかり地獄に行つて閻魔大王と地獄を天国に変えるネゴシエーションできるくらい経営者として成長しますね!

あと吉成さんの、やりたかつたことは皆で実現させますよ(笑)だから肉体は死んでも、これからも一緒に活動していきましよう!



佐藤 博章／伊達市  
(NPO法人チームふくしま)

今から12年前、2009年に吉成さんと出会いました。当時、私は福島県内の20代若手農業者で作る会の県農業青年クラブ会長をしておりました。しかし、活動内容がマンネリ化しており会員の減少、モチベーションが上がらず日々でした。そんな現状から新たな試みが必要と感じ、異業種との交流を模索しようとした時期でした。

たまたま吉成さんが農業体験（田植えから稲刈りまでの期間限定イベント）があると聞き、農家関連以外での企画に初参加することになりました。

昼食会場で自分の隣に座ったのが手品師？半田さんと吉成さん。どちらも青年実業家の感じで、目がキラキラしていて明るい方々、名刺交換すると県内にフレッシュ美容チエーンを数店舗経営しており、イケイケな社長さんと言う印象でした。また、チームふくしまメンバーとはじめて出会うきっかけとなり、商工分野でも若手経営者たちが福島にいると知りました。

解散の際には今度、講師を呼んで熱心に夢を語る大規模

イベントを飯坂でやるから参加しないか!?誘われましたが、怪し宗教団体の勧誘かなと思ってお断りした記憶にあります。→今となっては大変もったいないのですが。

後日、コラッセ福島で農産物即売会ありその向かい側で、河原で拾ってきた石に言葉を書くと言う変な個展をやっているグループあり、それもまたもや吉成さんでした。変わった芸術集団なんですか？と凄いオーロラを出しておりました。なんて多面な人だなとつくづく思い知らせられました。

その後、異業種交流を若手農業者会もするべきと提案したのですが、承認がもらえずじまい。むしやくしゃして屋台村で開店した吉成さんの店に酔っ払った勢いでお客さんと揉めたりと、本気で叱ってくれた姿が良き思い出です。偶然にも吉成さんに引かれ合う運命を感じ、その後の付き合い合いになりました。

震災、復興、福島ひまわり里親プロジェクト、ニューヨークといういろんな面でお付き合いでき、福島のパイオニア的存在の吉成さんでした。最高の出会いありがとうございました。



鈴木厚志／郡山市  
(NPO法人チームふくしま)

吉成さんは、湿っぽい話が嫌い、とっても感動屋さん、「チームふくしま」のことが好きで、何より御家族のことがとっても大好きでした。

誰に対しても壁がなく、クチャクチャの笑顔と大きい声で挨拶してくれるし、話を聞いてくれるし、全力で応援してくれるし、一緒に泣いてくれる人でした。

吉成さんの生き様は、語っても、語っても、語りつくせません。出会ったときは、最初は自分のためだった考えが、ドンドン人のためが変わっていく、更には、福島のため、日本のために変わっていく吉成さんがとっても素敵で、凄いなと感じていました!!

吉成さん、多くの人に『感動』と『ありがとう』をたくさん届けてくださり、ありがとうございました。吉成さんに繋いでもらったご縁を、夢を、志を、残された我々が、少しずつ成就させていきます。

ひとまず、8月には、大越町にひまわりが咲き誇りますから、その日は天国の仲間も、地獄も仲間も、みんな笑顔にする企画考えて、ツアー組んで、見に来てください。今年のみまわりは、過去最高に天に向かって微笑んで咲きますから。

肉体は死んでも、記憶の死までは、まだまだ当分ありますので、これから一緒にですよ。今まで、本当にありがとうございました。

## 相馬由寛／福島市

(NPO法人チームふくしま)

吉成さんと初めて会ったのは、2008年の居酒屋甲子園が開催されたパシフィコ横浜でした。

居酒屋甲子園で感動のプレゼンテーションで盛り上がった会場を後にした人たちが、空き缶を会場内に捨て去っているのを見るに見かねて、こそっとひとりでごみ拾いをしていたところを吉成さんに目撃されました。それから吉成さんが誰かに私のことを紹介するときに、このときのエピソードを毎回話してくれます。

チームふくしまの半田さん、鈴木さん、吉成さん、私には共通の師匠がいました。アントレプレナーセンターの福島正伸先生です。それぞれが各自に福島先生から学んでいましたが、福島に他にこんな人がいるよとつけてくれたのが福島先生でした。福島先生のご縁が福島でつながりチームふくしま誕生のきっかけとなったのです。

それから、吉成さんが福島でマジックの講座など、面白いと思った人を講師に呼んで、いろんな勉強会を企画するようになり、参加するようになり交流を

深めていきました。共通の知人友人も増えていきました。そんな中、2009年に吉成さんが、福島の飯坂温泉に全国から1000人集めて、福島の人たちが夢を語りみんなで応援するドリームプランプレゼンテーションと大講演会をセットにした1泊2日のふくしま夢まつりを企画して突っ走りしました。ここからチームふくしまのみんなが吉成さんに巻き込まれ始めます。

メンバーはこの一大イベントを成功させるために、一丸となって広報活動や当日の運営準備に徹夜の日々が続きます。ふくしま夢まつり本番前日の夜中の2時過ぎに、テンションがおかしくなって、このイベントを成功させるために、ろくにできなかったジャグリング20回やるぞって私が宣言して、失敗しても福島先生が教えてくれました。「夢しか実現しないっ」て叫んで奇跡の成功をして、吉成さんと抱き合ったときの感動が今でも忘れられません。

何よりもふくしま夢まつりのエンディングでの吉成さんのスピーチには、普段人前で涙を見せることがない私も、思いつきり泣かされました。吉成さんは私を泣かせることができる数少ない一人です。これまで3回泣かされました。1回目は夢まつ

りのエンディングのスピーチで、2回目は吉成さんが実行委員長をしていたときのひまわり甲子園のエンディングのスピーチで、3回目は吉成さんの葬儀で…。

他にも吉成さんとのエピソードがたくさんあります。夢まつりでは書ききれませんが、夢まつりが開催された当時、私が担当していたふくしま屋台村に吉成さんが出店したこと。震災後にチームふくしまを立ち上げ一緒に活動してきたこと。

吉成さんは年上なのに、チームふくしまでは年が低い方が偉いんだって言って、いつも年下の僕らを気遣ってくれてました。

吉成さんがこれまで経験してきたことも、何回も聞いてきました。カツ亭や両親の会社を守ってきた話。人より大変な思いをたくさんしてきているのに、それを全部受け止めて、前向きに行動する姿、道を切り開いていく姿から本当にすごい人だなんて尊敬していました。

吉成さんは行き詰まったとき、人に会って運命を変えてきたように思います。島根県のとんかつ屋さんの講演を聞いてそ

のあと会いに行ったという話。福島先生の講演を聞いて、そのあと運転手をしますって言って福島まで運転するはずが自宅まで送ってもらった時の話など、吉成さんが変わるきっかけになったときの話を何回も聞いています。

吉成さんは、チームふくしまのアイディア王、この1年間は障害者雇用や、「お互い様の街ふくしま」、そして子ども食堂と次々と「B」カフェを中心に新しい取り組みが進んでいました。

4月30日吉成さんが倒れた日。12時頃に珍しく吉成さんから、「相馬さん、今日30分くらいお時間いただけますか？これから行つていいですか？」って連絡があり、これまでにないくらい目を輝かせて「みんながハッピーになることを思いついたらいいな」とって子ども食堂カレーの企画書を持参されました。その時の企画書が形見になるなんて思いもしなかったです。でも、吉成さんが僕を頼ってくれたこと、本当に嬉しかったです。チームふくしまは吉成さんが亡くなってからも、巻き込まれるんですね。吉成さんがやりたかったこと、これからみんなで実現していきますからね。





## 原 美子／福島市

(NPO法人チームふくしま)

Agatoで聞いたロックバンドおかんの『幸せのかたち』もう絶対、お母ちゃん達に聞かせたい♡

『ねえハグちゃん、10月12日ライブ予約したいんだけど頼んでくれない？』『あー良いっすよ！』となり、2013年10月12日猪苗代養護学校で、おかんのライブが実現しました。

当日の朝は土砂降りの雨、福島からワゴン車で山越えのおかん。なんとなんと『盛り上がり方わからないっしょ！教えに来てよ。』と、ハグちゃんが仲間を連れて来てくれました。

ライブは大盛り上がり。車椅子の子もひっくり返らんばかりにノリノリ。もちろんお母ちゃん達は涙、涙、そして笑顔。生徒の『ありがとう！』の連発にDaichan『分かったよ。曲名変えます！』と『ありがとう』を歌いました。『こんなライブをやりたかったんです。』とYouさん。

みんなが泣いて笑って大声で歌って最幸のライブになりました。外は雨が上がり青空になってました。

ハグちゃんありがとう！大好きだよ♡

ハグちゃんマインドはみんなに引き継がれます♡

## 支倉文江／福島市

(NPO法人チームふくしま)

震災当時、いろんなことがどうしたらいいのか分からなくて不安だった中、一番背中を押してくれたのが吉成さん。

すぐく人を見ていて、ぼつんとひとりに絶対にならない人でした。ちよっと何かあって少し気持ちがふさぎこんでいると、それがすぐ分かって、でもそれを指摘するわけではなく、そっと声をかけて救ってくれる人でした。

## 藤島康広／天栄村

(NPO法人チームふくしま)

何事にも楽しむ姿勢 誰からでも学ぼうとする姿勢 日常の目に付くどんな事柄からも気づきを得ようとする姿勢 誰も思いつかないようなアイデアを生み出し続ける姿勢 思い描いた妄想を実現させようとする行動力 出会ってからこれまで吉成さんからたくさん事を教えていただきました。人の命は限りあることを忘れてはいけません。だから残された時間を1秒も無駄にすることなく目の前大切な人のため世の中の人々のために突っ走れ！そう吉成さんから背中を押されているように感じています。

何か困った事があったとき、「吉成さんならどう考えよう答えるかな？」って記憶の中にある吉成さんに問いかけ答えを想像してみるけど中々想像つかなくて困っています。

## 堀内孝勇／郡山市

(NPO法人チームふくしま)

出会ったのは2008年。会っていきなりその日に吉成さんが私の車の助手席に乗って、横浜のイベントに行くためドライブをしました。その道中、初めてお会いしたにも関わらずずっとお話をしながら行きました。

私の事務所がフレッシュさん(吉成さんの会社)と近く、それ以来よく行き来していました。その頃、フレッシュの社員のみなさんと吉成さんの関係がうまくいっていなくて、自分も変わっていかなくちゃいけないし、それをどうやって伝えたらいいのだろうか悩んでいました。それで、「フレッシュの社員さんに感謝を伝えたいから、ビデオメッセージを作成してほしい」と依頼を受けました。会津に行ったフレッシュの社員旅行に私も同行させていただいたので、その時の吉成さんの姿を見て、経営者として、社員さんのために何ができるのかと考えているのだなどとても感心しました。

吉成さんと私は同い年で、ちょうど吉成さんの上の娘さんと私の末っ子が同じ年です。まだ娘さんが低学年の頃にかつ亭の近くに畑を借りていたとき私

の子どもたちもいっしょに農業体験をした際、娘さんも連れてきていました。その時の写真が先日出てきたのですが、普段私たちには見せない吉成さんの「パパ」という姿でそれがとても印象的でした。

吉成さんは発想力があり、いつも新しいことや面白いことばかり考えている人。そういうところは、吉成さんのお父さんと似ているのかもしれないね。

私は郡山に住んでいます、今回の訃報を新聞で見た郡山の方々から「吉成さんにお会いしたかった」「噂では聞いていたけど・・・」など聞きました。私たちは吉成さんに出会い、当たり前のように話して、いつも一緒にいたというのはすごく贅沢なことだったなと思いました。

思い出があまりすぎて、これという思い出を特定できません。会ったときから、ずっと発想が面白いということ。あと、みんなとも話すのですが、吉成さんはいつも周りの方を気にして、必ず話しかけてくれるとか、誰かいると絶対に一人にしないというところが、そういう優しさをすごく持った方でした。



14年関わらせて頂いている福島市内の児童養護施設アイリス学園の子どもたち。

吉成さんの葬儀の後に「今日施設に来てほしい」と連絡があり、訪問させていただくと、子どもたちが描いてくれた似顔絵と1人1人からのメッセージを飾り、子どもたちだけの追悼式をしてくださいました。ありがとうございます。

### 井出景子／長野県

太陽のように温かくひまわりのように明るく華やかな笑顔が印象強く残っています。

### 稲葉サブ修／神奈川県

私は2011年6月に福島市の渡利小学校へボランティアに行つたのですが

① <https://ameblo.jp/hirohaku/en-try-10931808307.html> 当時のはぐちゃんのブログです）、その日の夜に、はぐちゃんのお店を訪れたのですが、「お客さんたち福島の人じゃないね？こんな原発やばい時になんで福島きたの？（福島なまり）」と。

一通りのいきさつを説明したところ「福島の子どものためにありがとうございます（福島なまり）」と感謝され、さらに、「イカポッポ海賊団に来る常連さんすべてにも「福島の子どものためにありがとうございます」と、ねぎらいの言葉を頂きました。子供がまだいないような若いお客さんにも同様に感謝されました。

はぐちゃんの言葉、影響は周りを巻き込みすぎいと今振り返っ

て改めて感じております。

その後も何度か交流あり、

② <https://ameblo.jp/hirohaku/en-try-10945832872.html>

③ <https://ameblo.jp/hirohaku/en-try-10963322734.html>

コロナが落ち着いたら福島行こう、と思っていた矢先でとても残念で仕方ありませんが、はぐちゃんが繋いでくれた福島の方との出会いもありますのでこれからも大切にしたいと思っております。

はぐちゃんの意志をみなさんでついで、はぐちゃんが見たかった景色を作れるようにはりきつていきましょー！

#### <Amebaブログ>

ハグちゃん「毛は一日にして生えず」



①



②



③





## 稲葉佳正 / 茨城県

生前のハグちゃんは、私にとって眩しすぎる存在でした。

「すごいなあ」「かつこいいなあ」と思いつつ、勝手に近寄り難さを感じていたような気がします。

それほど親しくなかったボクでしたが、訃報を聞いた時に「お別れの挨拶に行かなかったら一生後悔する」という思いが募って、一人で福島まで行ってきました。

迎えてくれた、ご遺族のみなさん、半ちゃんをはじめとする福島のお仲間のみなさん、BLTカフェのスタッフさん。みなさんに温かく迎え入れていただき、いろいろなお話を聞かせてくれて、改めてハグちゃんの残したモノの偉大さを身をもって体験することができました。

いいと思ったことは素直に即実践する。

この生き様は、今までの私に一番欠けてきたことです。ハグちゃんの思いをかみしめながら、今後の人生を「おかげさま」「おたがいさま」の気持ちで生きていきます。感謝、合掌。

「天輪拍陽清居士」という新しいお名前は、今世でのハグちゃんの生き様がギュッと込められていて、知った瞬間に鳥肌が立ちました。素晴らしい戒名を付けてくださったご住職に、感謝いたします。



## 江藤大裕 / 福島市 (NPO法人ビーンズふくしま)

パセオ通りで本当に偶然出会って、自分から「はぐさんですよね!!」って声を掛けました。そしたら「どーもー」なんて普通に挨拶して別れたその日の夜、はぐさんから突然メッセージが来て。「どっかで見たことあるなーと思って1日ひっかかってました。今、わかりました!江藤さんのこと youtube で見たことありましたー!同じ番組に出ましたね(笑)これですっきりしました〜」って。こんなメッセージが夜中の2時11分に来ました(〜)

出会って2週間後の7月12日、はぐさんから「子ども食堂」を始めたいんだけど、どのようを始めたいのか、NPOじゃなきゃできないのかなどなど長文のメッセージが届いて、打ち合わせしたのが3日後、その日にネットワークに加盟して、その次の日にBTL子ども食堂のチラシがもう完成して...ものすごいスピード感で進んでいきました。しかもBTL子ども食堂の最初のテーマは「料理が

出ない子ども食堂」ってのははぐさん言ってましたね〜。行動力もイメージもほんとぶっ飛んでいました(笑)

私たちの運営している「子ども食堂よしいだキッチン」が新型コロナウイルスの影響で開催が難しくなった2020年12月。泣く泣く中止を判断したのですが...それをはぐさんに相談したところ、「えー!!なんでもー!!」「江藤さんと子どもたちのためなら何でもやるよー!!」「俺、サンタの格好するから1軒、1軒、子どもたちの家サプライズで全部回ろうよ〜!!」そんな温かい言葉をいただき、子どもたちと仲間を思う気持ちに、ただただ心が打たれました。

はぐさんとの出会いは自分の生き方にとつもない影響を与えてくれました。子ども食堂と一緒に盛り上げてきた仲間として、大好きな友人として、そして尊敬する大先輩として、ずーっと背中を追い続けます。大好きです!!

遠藤 元気／川俣町（山木屋太鼓・和太鼓奏者）

「めっちゃかつこよかったです。これからなんか繋がる予感がするので、これ名刺です。怪しいものではないので！」とイベントでの演奏後、とても怪しい人から満面の笑みで名刺をいただきました。ハグさんです。

まさか本当にそこからたくさん繋がりができるなんて、そして私の人生まで変えてしまうなんて、この時は予想もしていませんでした。

大学を卒業して、福祉関係の仕事をしていた私ですが、震災があつて、今やりたいこと、やれることに挑戦したい気持ち芽生えていました。心の中にモヤモヤしたものを抱えていた私は、当時ハグさんが経営していた「agatio」でよく相談に乗ってもらっていました。このことを打ち明けると「やってみたら？」と軽く一言。そして「もう少しうまくいかなくてお金ないときはここにきてご飯食べていきな！」とこれもまた満面の笑み。忘れられない心に残っている言葉です。それでも迷っていた私に、ハグさんからの電話がかかってきました。「元気、NYで太鼓演奏してみない？」トドメの一撃でした。

このことをきっかけに心を決めた私は和太鼓奏者としてNYでデビューを果たします。とはいえ、迷子になったり地下鉄で太鼓叩いて警察が来たり、本番当日熱出したり、パスポートなくしたりと珍道中でしたが、あの時があるから今の私があります。

吉成さんのような出る杭をびっくりするくらい引っこ抜いてしまう大人に私もなりたいです。吉成さんが「世界でやっちゃえよ元気！」と応援してくれたこの和太鼓で、たくさんの人を応援できる奏者になります。そしていつかまた話を聞いてください。本当にありがとうございました。



遠藤 弘之／福島市

「田村市大越町と一緒にひまわり結婚式を挙げよう！」と、居酒屋たすいちの浦本社長からお誘い頂き、式に参加させて頂いたのが福島ひまわり里親プロジェクト代表の半田さんとの出会いでした。

面識の無かった僕を式に参加させて良いのか半田さんは不安だったそうです。

吉成さんに僕の事を相談したところ「あいつは大丈夫だよ」の一言で信用出来たと、後程、半田さんから伺いました。ひまわり結婚式以前に、二人きりで神前式を執り行っていました。妻の両親に花嫁姿を見せることが出来たのは吉成さんの後押しがあったおかげでも感謝しています。

以前経営されていた飲食店のアガトでは、店舗にあったピアノの調律を妻に任せて頂いたり、何気無い雑談の一言が異業種の僕の仕事の大きなヒントになったりと、距離感は近いのに背中はずいぶん感じる不思議な感覚の方でした。

先日BLTカフェに伺いましたが、店の奥から「エイタくん！」と出てきてくれそうな感覚になってツラかったです・・・。（エイタは僕のあだ名です）

「職人の話って面白いね〜！」と他愛もない話を聞いてくれてありがとうございます。

日々精進しますのでそちらの世界から見守って下さいね！

ただ 例えれば  
実る果実の 芳しく眩い香りも

ひとつ 季節彩り そっと枯れ落ちたとして  
蔦は絡まり 身は朽ち果てて

思い出の欠片 土に帰り また花となるでしょう  
Like a merry-go-round & round  
また会いましょう



## 川合 径／沖縄県

(株式会社ローカルランドスケープ)

ドリプラ2013で清野さん(せいやん)の支援者をやっていた時、なかなか覚悟の決まらなかったプレゼンターを本気で支える、本気で信じる、できる支援を全力でやり抜く、そんな姿を見せ、超感動するプレゼンテーションを一緒に完成させました。

本気の応援は、本人以上にその夢を実現したいと信じていることなんだと教えてもらいました。

なんでここまで人を支えることができるのか、ずっと不思議でした。どこからそんなエネルギーが湧いてくるのか？自分ごとになっているんだと思いました。だからこれほどまで慕われ、愛され、心に残る人物になっているんだな。

同じような生き方はできないけど、吉成さんを見本として人を大切にすることはできる。本当にたくさんの見本を見せていただきました。

笑顔の写真を見れて、本人がそこにいるようでした。本当にありがとうございます。これからも見守っていることを感じ、一步一步胸張って進んでいきます。

## 川上 美保／東京都(一般社団法人マザーニア)

ハグさんとはドリプラで知り合いました。福島ひまわり里親プロジェクトの時、当時の仲間とタネを購入しました。

ハグさんはいつも有言実行！即行動！の背中を見せてくれました。多くは接点はありませんでしたがFacebookなどで活動をいつも拝見して勇気をもらっていました。ありがとうございます。



## 倉田雄二／長野県

私たち夫婦が福島でひまわり結婚式を挙げさせていただいた夜に、佐久間先生のご自宅に招かれたときのことです。

隣りに座った吉成さんと話になり、吉成さんの壮絶な人生をお聞きました。

そのなかでも特に印象に残っている言葉が、「借金を何億背負おうが、命さえあればなんともなる」というフレーズです。

私が辛いときや壁にぶち当たったとき、吉成さんからいただいた言葉が励みになって何度も乗り越えてきました。吉成さんだったらこんなことで弱音を吐かないよな、と。今でも胸に突き刺さっていて、大切な宝物になっています。

そして、「福島ひまわり里親プロジェクトのチームメンバーとなら、なし得ないことはない！何でも実現できちゃうからさ！ガッツハッハッ！」と豪快に無邪気に笑いながら語る吉成さんの姿に、チームメンバーみんなのことを心から大好きなんだろうな！と思いましたし、確固たる信頼関係と深いキズナで繋がっていて、そのなかのストーリーのひとつに私たち夫婦がひまわり結婚式で関わらせていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。

吉成さんから人としてのあり方を教えていただきました。ありがとうございます。ご冥福をお祈りいたします。

黒澤絵里香／福島市  
(保原高校・現在は福島県教育センター所属)

生徒が、子ども食堂でのボランティア、毎回来しかつたと写真と共に報告してくれたのですが、いつもはぐさんすごい女装で笑っちゃってました。でもそこには生徒たちに対する配慮や心遣いがあった、生徒たちをBLTの一員かのように可愛がってくれて、ボランティア参加する生徒が2人から4人、4人から8人と増えていきました。

エフブンノイチに生徒が参加したいと言った時は「何人でもウエルカム!」俺が代金払うんで手ぶらで来て!」とお金のない学生たちはどれだけありがたいかったか。

そして、ボランティアでお世話になった生徒たちが高校卒業するときには、なんと学校に花束を人数分、名前入りのおめでとうカード付きで送ってくださいました。前日私にメッセージで「生徒たちのフルネーム教えてください。花束送りたいので」と忙

しい中準備してくださいました。

私は生徒たちとビデオメッセージを作ってYouTube限定公開で送りました。するとコメント欄に「BLT」子ども食堂精神は一生忘れないでね。いつでも遊びに来てください。」と書き込まれていました。

出会った人を家族のように大切にし、そして人に無償の愛情を与えるそのGIVER精神は、きっと高校生たちに根付きパイフワードされたいくと思えます。

個人的には、BLTにハンバーガーを買いに行った時、お互いさま食糧庫を利用させていただきました。「貧困家庭がこれの対象っていう概念を壊したいんだよね」という言葉が印象的でした。先日は、食糧を置かせていただきました。

これからも、児童生徒には、ぐさんのようなSpiritが芽生えるような授業をしていこうと思います。生徒たちと関わっていただき本当にありがとうございました。

## 吉成洋拍さん

突然の訃報に驚いています。ご遺族、ご親族、多くのお仲間の方々にも、お悔やみ申し上げます。

福島ひまわり里親プロジェクトと出会い、3年前、初めて福島を訪れ、半田さんに案内された懇親会の会場が吉成さんの素敵なお店でした。美味しい料理とお酒を味わい、避難所での炊き出しのお話を伺いました。特に豚汁の話は心に残っています。

生徒たちと合流して数日後、山口さんからの話を伺ったのも吉成さんのお店でした。ボリュームたっぷりのランチをご馳走になり、生徒たちも大満足で、福島の良い思い出を作ってくださいました。

2年前に同僚の小野先生と伺った際には、お店のメニューも様変わりしていました。従業員である障がいをもつ人々のことを考えてのことでした。吉成さんのパワーや温かさを感じずにはられない出来事でした。

つい先日のひまわり甲子園全国大会では、本校のコメンテーターは予想通り吉成さんでした。吉成さんの気さくな人柄に加え、心のキャッチボールができていく学校などの評価に生徒たちも大喜びで、より一層意欲が増しました。



まだまだこれから、末永くお付き合いが出来ることを楽しみにしていましたので、残念です。

しかしながら、吉成さんが目指されていた「福島を同情の街から尊敬の街へ」は、既に吉成さん等、多くの福島の方々との出会いで、私たちのなかでは既に尊敬の街へ変換されています。

寂しい限りですが、今年も吉成さんを思い、福島を思い、ひまわりを育て、一人でも多くの人々に里親になってもらうことで、吉成さんのご冥福をお祈りいたします。

地頭 雅春／愛知県(安城学園高等学校)





## 渋谷晋太郎／広島県 (福島ひまわり里親プロジェクトを応援する会)

東日本大震災の起こる前から、「福島に、とっても熱くて面白い人達がいるよ。」と、株式会社インフイニティ(広島県広島市)代表取締役の田原実さんから教わっていました。

東日本大震災があつてまだ間もない2011年4月、広島の実家に帰ってきた半田真仁さんを、田原実さんが私に紹介してくださり、半田さんとの交流を通して、「このような苦境にあつても、福島や全国のことを思い、人のために行動をする人達がいる」ことに感動しました。

東日本大震災から1年後の2012年3月、どうしてもチームふくしまの皆さんに会って、応援のメッセージを届けたくて、福島県を訪ねました。その時、ハグちゃん(吉成洋拍さん)と初めてお会いしました。その当時、ハグちゃんが営んでいたアメリカな飲食店で、夜遅くまで語り合ったことを今でも鮮明に覚えています。

2013年に第1回ひまわり甲子園全国大会が開催され、

それから毎年福島へ足を運ぶようになりました。毎年、チームふくしまの皆さん、全国の福島ひまわり里親プロジェクトの仲間たちとお会いするのを楽しみにしていました。そして、ハグちゃんは、いつも屈託のない笑顔で迎えてくれました。

毎年、福島を訪ねる前に、必ずやっていることがあります。それは、震災から1ヵ月後の2011年4月19日に収録された「中村文昭のポッドキャストでみるみる元気がわいてくる(56〜58回)」を聴くことです。この3回は、チームふくしまの鈴木厚志さん、半田真仁さん、藤島康広さん、そしてハグちゃんの4人が、ハグちゃんのお店で中村文昭さんと語り合ったものが収録されています。東日本大震災が起こっても、希望と感謝を原動力にして、前に向かうと立ち上がった『ふくしまの底力』を全国に示した素晴らしい内容です。この中で、ハグちゃんが語った『一杯の豚汁』の物語は、何度聴いても胸が熱くなります。

2020年3月に開催される予定だったひまわり甲子園2020全国大会は新型コロナ

ナウイルス感染拡大に伴い2021年に延期となりました。2021年3月6日に延期開催となった「ひまわり甲子園2020全国大会」の告知イベントが2021年3月3日に生ライブ配信で行われ、私も出演させてもらい、オンライン上でハグちゃんとお会いできましたが、まさかその時が一緒に過ごす最期の時となるなんて、もちろん思ってもいませんでした。

「ハグちゃんが倒れた」との情報を知った時、頭が真っ白になりました。仕事に手がつかなくなるほど、ショックでした。ずっと快復を祈り続けましたが、願いは叶いませんでした。ハグちゃんのお通夜や葬儀の映像を観させてもらい、「どれだけ人に愛されている人なんだ」と驚かされました。ハグちゃんの『とにかく人の為に』という生きざまが現れたのだと思います。

ハグちゃんの残してくれた思い出は、今でもずっと私の心の中にいます。ハグちゃん、出会ってくれて、本当にありがとうございます。

## 清野 巽／福島市

(NPO法人チームふくしま)

吉成さんと初めてお会いしたのが、大学3年生の時でした。チームふくしまの理事会に参加させていただいて、その後の懇親会の会場が「agato」でした。特にその時はあまりお話は出来ませんでした。お話を伺ったのが私の誕生日で、初めてお会いしたのに、盛大に御祝いしていただいたことが嬉しかったです。

その後も、ボランティアでお会いする機会が何度かあり、その度に「ボランティアに来てくれてありがとう！」と声をかけていただきました。

大学卒業後、チームふくしまに就職後は、仕事を通じて沢山のことを学ばせていただきましたし、お話を沢山聞いていただき、本当に貴重な時間でした。そして、お会いすると、最初と最後はいつも「清野くん、いつもありがとう！」「たつみん、ありがとうね！」と気に掛けていただきました。

本当に沢山の「ありがとう」を吉成さんからいただきました。そのお話を聞いています。吉成さん、出会ってくださり、ありがとうございます。そして、沢山の「ありがとう」をいただき、ありがとうございます。

## なっちゃん／福島市

震災後まもなく福島市の街中も閑散とし、パセナカミッセでオープンしたばかりの私（エステサロンをやっていました）は途方に暮れてました。少しでも足を止めてもらおうと通常3000円でやっていた足つぼを500円と破格な値段で始めました。

そのときにボランティアの方々を引き連れたはぐちゃんの目に留まり、足つぼをやってくれたことが出会ったきっかけでした。

「これすごいね！足がすごく軽くなる。この値段でやるのも凄いよ！これもボランティアだよね！」と言ってもらったのがすごく心に残っています。足つぼやってくる最中は痛くて絶叫してましたが（笑）たくさんの方々には私の足つぼを紹介していただき、いろんな方々と知り合うこともできました。はぐちゃんのおかげです。

その後も足つぼを定期的にやっていたが、はぐちゃんが「今日は痛くないと思う」と始まる時に話してもやはりお決まりの絶叫で、ビル内に響き渡ってました（笑）あのときの写真は私の宝物です。



## Noby／二本松市

初めてBLTカフェに行くと、はぐちゃんに会った時に、障害者雇用をしていて、働いているスタッフが、楽しく仕事していて、それに感動しました。

障害者を障害者だと思って接するから障害者なんだと、それぞれに優れた部分を持って、そこをみつけて、引き出してやれば、健常者よりいい仕事してくれるんだよねって話してくれました。

ちょうどその頃、福島市に住むファンの方から、福島市内で、定期的にコンサートやしてもらえたら：という要望があり、自分は、ここでやろう！と、すぐに決めて、月1ライブが始まりました。

スタッフみんなと仲良くなり、みんなを海釣りにつれていき、釣ったその場でお寿司の握りにしてあげたんですが、その時の事が、みんなめっちゃ楽しい思い出になってるそうです。

これからもずっと、はぐちゃんが居るBLTカフェのように、みんなとお付き合いして行きたいと思っています。





「俺あ、もういつ死んでもいいんだ。」

2021年4月20日、はぐさんと私の最後の会話です。

その日は、吾妻さんの畑で、はぐさん、りかさんと一緒に、じゃがいもを植えていました。

BTカフェでは、月に1回、子ども食堂を開催しており、そこで使うじゃがいもを自分たちで育てよう！という話から、お店の定休日に4人で、整地した畑にじゃがいもの種芋を一つひとつ植えていました。

作業が終わったら、じゃがいも畑の脇に椅子を出し、ぼかぼか陽気と心地よい風の中で、ゆっくと過ごしました。お昼は、防災おにぎりを水から作って、キャンプ気分談笑しながら、「じゃがいもが収穫できたら、子ども食堂で、カレーや芋煮会をやるうね」と、じゃがいもが収穫できる日を心待ちにしていました。

あつという間に時が過ぎ、「もうこんな時間！そろそろ帰ろう！」と、身支度を済ませ、帰り際に言われた一言が、冒頭の言葉でした。

「今日は本当に楽しかった！なりちゃ

んありがどう〜！！！」

「いえいえ！こちらこそ、とっても楽しかったです！じゃがいも本当楽しみですね〜！」

「ね〜！本当楽しみ〜！もう毎日が楽しくて楽しくてしょうがない！なりちゃんね、俺あ、もういつ死んでもいいんだ。」

「えっ…なん…え…？」

はぐさんの突然の話に驚き、上手く言葉を返せないでいると、

「もうね、毎日を全力で生きているの！今日死んだっていい！明日じゃないんだよ！今日死んでもいいって気持ちで毎日生きてる！本当毎日が充実しすぎて、俺はほんつと幸せ者で、もういつ死んでもいいな〜って思ってたんだよね。」

「もうはぐさん縁起でもない…はぐさんいなくなったら、BTも子ども食堂も大変なことになっちゃいますよ？」

「いなくなったらいなくなつたで、それは誰かがやってくれんだよ。大丈夫大丈夫！」

「も〜！ダメですって！」

「あはは！でも俺、本当最近そう思ってただよね〜。」

「もう！オーナー！！なりちゃん困ってるじゃないですか！なりちゃん、ごめんさいね〜。オーナーが変なこと言ってる。」

きつと私は困った顔をしていたのでしよう。りかさんが途中から会話に入ってくださり、私は、

「はぐさんがいなくなったら、私が寂しいのでダメです。カレーやるって、さっき話したばかりじゃないですか！」

「そうだった！でもいなくなつても、なるようになるもんなんだよ。」

「も〜！！！！！！！」

その場合は、漫才のように軽いテンションでしたが、あの日の会話が、面と向かって話す最後の言葉になるとは思ってもみませんでした。

畑から車での帰り道、上手い言葉が出てこなかった私は、なんて返すのが正解だったのだろうか…と、もやもやしていました。

そのあと、メッセージのやり取りで、はぐさんから、「カレーレシピや今後のことで相談があるんで、GW明けに打ち

合わせしましょう！」と連絡いただき、ほつとしたのを覚えてます。でも、それが最後のやり取りでした。

何を相談したかったのか、どんなことを思い描いていたのかは一生聞けぬまま。ただ、「福島を盛り上げるカレーと一緒につくる」という約束だけ。

そのことだけが、ぽつんと、心に残ってます。

どんな形であつたって構わない。カレーをつくろう。きつとそれを実現することが、天国(地獄?)にいるはぐさんも喜んでくれるに違いない。

そして、そのカレーを通じて福島を盛り上げていくことを、きつとはぐさんは夢見ていたんだろうと勝手に妄想しています。

妄想したら、もうそうするしかない♪

はぐさんの言葉や想いを少しでも具現化し、「このカレー、はぐさんって人と約束してただけさ〜…」と笑い話のように語り、福島の子ども食堂でふるまわれ、子どもたちを、福島の未来を、ちよつとでも明るくするカレーをみんなでかこむ…

そんな未来があつたら、きつともっと素敵な福島になれると思います。

ババユウキ／福島市

(松下政経塾)

エフブンノイチで「私かなぜUターンを決意したのか」というお話をさせていたいた時、「一緒に楽しいまちをつくっていきましょう！妄想したら、もうそうするしかない」と、背中を押してくださり鼓舞してくださいました。

ふと、ハグさんから「ばびちゃん、こうしたいと思うんだ」とアイデアを教えてくださいました。思ったら、翌日にはそれが実現していて、いつも驚かされました。

志を立てて実践に至るまで、ウサインボルトもびつくりの人類最速のスピードの持ち主だと思います。

「やっちゃったよ、ばびちゃん。」とにやにや・にこにこしながら言われる度、今度は私の番だ！と自分自身のエネルギーになりました。

「福島を世界一のまちにする」ハグさんと妄想したこと、ハグさんがいたから妄想させてもらえたこと、すべてを実現する覚悟です！！

平形 洋司／山形県

(みんなのそら)

吉成さんはいつもワクワクしながら夢を語ってくれました。夢の内容は人を輝く夢でした。

真っ直ぐに熱っぽく夢中になって夢を語り、人をキラキラと輝かせることができるのが吉成さんです。

2021年4月21日に吉成さんにお会いできた時も、障害者の絵に3億円の値段を付けて販売したい。そうすると3億円の絵を描く画家になる事ができると語ってくれました。嬉しいね！ありがとうございます！



はぐちゃんへ

はぐちゃんが熱く語っていた沢山の夢や妄想(笑)、みんながはぐちゃんと一緒に叶えようと頑張っているよ。

はぐちゃんとの約束を守ろうと、はぐちゃんと一緒に動き出している人もいますよ。

すごいねー。

はぐちゃんが口にした事、妄想した事、夢が次々と具現化しているよ。

きっと「すげえ、すげえ」って言って見ているよね？

みんなの傍で、応援してくれているよね。もしかしたら、一緒にできない事を悔しがっているかもねww

居た時(あえての例え)よりも、もっともっとみんなの中に居る気がする。

みんなが自分の中のはぐちゃんに話しかけたり、問いかけたりしている気がする。

今もはぐちゃんを挟んで沢山の縁が繋がっていています。望んでいたコミュニティーが広がっているよ。

そう、今でもみんながはぐちゃんと一緒にいる。次に生まれてくる時のはぐちゃんでもみんなの所へ来てね。

流れ星見に行こうね！

はぐちゃんの短くても濃おお〜い人生の、ほんの一瞬だったとしても、はぐちゃんとみなさんと笑いあえた時間があったこと、光栄に思っています。ありがとうございます！！大好きだよ。

ひめ／福島市



藤田三穂子／桑折町

(BLTカフェ)

2015年7月 どやさん講演会の連絡先が吉成さんでした。ドキドキしながらメッセージで連絡した際、絵文字\*(^o^)\*入りのメッセージで、とーりっても気さくに返信してくれ、安心したのを覚えています。それなのに、Facebookで吉成さんを見ていると、女装したりなんか色々おかしな格好をしていて、大丈夫なのか?!と正直不安になりました(笑)一緒に写真を撮れば変顔するし(笑)

その後、どやさんの講演会、BLTカフェでのちむぐくるライブなどで直接話すことが増え、本当に真面目に考えてるすごい人なんだと、知りました。気付くのが遅くてごめんなさい。

もっともつと話をしたかったのが、正直な気持ちです。吉成さんが残してくれた、『吉成さんのやりたこと』にすこしでもお手伝い出来ればと思っています。

こんな私に出逢ってくれて、ありがとうございます\*(^o^)\*

藤原美幸／福島市 (fun cafe NET)

今年の4月24日、私たち団体の主催するfun cafe キッチン子ども食堂のプレオープンに駆けつけてくださり、ポップコーンとわたあめの無償提供をしてくださった他、私たちの団体が立ち上げたばかりで財源も物資もない事を知ると、すぐにお米や募金箱やその他物資を提供してくださり、ボランティアにも駆けつけて活動を全面的に支援してくださりました。

そして今後の活動計画を話す時、一緒に福島市の子ども食堂を盛り上げて行こうと背中を押してくださいました。

妄想したら、もう、そうするしかない

2つ目の子ども食堂立ち上げや、今後の活動計画などいろいろな私の想いを真剣に聴いてくださり、全面バックアップするから大丈夫だと思いきり背中を押してくださいました。

こんなに心強い後ろ楯があるでしょうか。感謝でいっぱいでした。

今後は、ハグさんと一緒に目指したかった事を、私に出来る形で一つ一つ実現し、それを次世代に繋いでいきます。ありがとうございます。

【左】2人で一緒に写ってる子は、この日スタッフとしてハグさんと一緒に活動して友達になりました。次の子ども食堂開催時に、チューリップ組のハグさんはどこに居る?と聞かれ、ちゃんと覚えていました



【右】fun cafe キッチン子ども食堂のオープニングにハグさんが関わってくださって、心から感謝と、そしてこの活動を次世代に繋げて行くのが私の使命と強く感じました



辺見妙子／福島市

(NPO法人青空保育たけの子)

ふくしまNPO経営者ゼミの研修でBLTCafeにみんな伺った時に、吉成さんが「半径3メートルの人の幸せ」に関わると言ったことが忘れられません。大きな目で一所懸命に語ってくれました。

その後、スタッフに吉成さんと出合わせたいと思ひ、BLTCafeでスタッフ研修を行いました。そして、山形県米沢市の活動地にも来ていただき(ー)、スタッフひとりひとりの思いを聞いてもらって、お昼も一緒にしました。純和風のお昼ご飯でしたが、とても喜んでいただきました。

わたしたちも4月からこども食堂を始めたので、これからもっとお付き合いを深めていけると思っていたのに、本当に残念です。でもきっと、空の上から応援してくれていると思います。半径3メートルよりかなり外になっちゃいましたけど。



牧野直樹／長野県  
(長野県公立学校教諭)

長野県で、はぐさんが講演をしてくださった時のこと。講演はもちろん、心動かされる、深い学びをいただいたのですが、私に心に残っているのは、周りのスタッフや来てくださったお客様へのお心配りの姿です。「今日は、ありがとうございますー！おひとりおひとりに声をかけられていますので。眼鏡の奥の優しい瞳、笑い声、立ち姿：「相手の視線に立つって、心に寄り添うって、こういうことなんだなあ」と心が温かくなつたを覚えています。

そんなはぐさんの生きざま、あり方は、これからも私の心に生き続けます。はぐさん、見ていてくださいね。ありがとうございます。

松井国彦／福島市

(整体院縁)

BLT カフェノビーさんコンサートでは、次女の誕生日でケーキを出していただいたり、次男の大学進学の際にはハンバーガーの上に「卒業&合格おめでとう」の裏には、「ひとり生きてきたんじゃない。まわりのみんなに感謝だな」なんてメッセージつけてくれてました。

サンドイッチの差し入れくれたり、「押し売りに来ました！」なんて事もありました。

はぐさん別荘をお借りしてバーベキューやゲームをして金掘りのシヨベルカーを運転させてもらったり、三女が鼓笛でトランペット吹く事に決まった時には、めぐちゃんがつかつたというトランペットをくれたり、三河台小の運動着が変わると言ったらすぐ学校に行っちゃうし、思い出はつきません。楽しいサプライズばかりです。

はぐさんには感謝しかありません。家族の皆様の幸福を願っています。ありがとうございます。ました。



松井知美／福島市(整体院縁)

ひまわり活動やはぐさんのお店のコスプレを見るたびに、想像を超えた世界観で腰が抜けるほどびっくりしました！その発想力は誰もマネできない、吉成さんならではのものだと感じました。

行動は一見派手なように見えて、一方でとてもナイーブで繊細な心を持つ優しい人でした。娘が吉成さんのお店ライブに行くと、ライブを中断してお誕生日パーティーをしてくれたり、運転免許用の写真を撮りに行った娘に、わざわざ「免許更新大丈夫だった？」とママに連絡をくれたりしました。三女が小学校の鼓笛のトランペットを担当すると知っては、吉成さんの長女さんの使っていたトランペットを「使ってね！」と突然持ってきてくれたりもしました。

やること成すことサプライズの塊のような方でした。今回の人生で、たくさんの人々に愛をいっぱい与えたから、きつと天国でも、そして、次の人生でもソウルメイトとして愛に包まれた生き方をしてゆかれるんだろうな！吉成さん！本当にありがとうございます！そして、またお会いしましょうね！再会・・・



永遠瑠 マリールイズ／福島市  
(NPO法人ルワンダの教育を考える会)

Facebookアカウントの作り方を教えてくれました。このように世界中の人々とつながるようにしてくれて本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

東日本大震災の時たくさんの人たちとつないでくれました。

コロナのこの厳しいときにも、ルワンダの学校の運営がきびしくなったときに立ちあがってくださって、今現在、吉成さんのおかげでウムチョムイザ学園の存続、たくさん仲間の支援によって今も子ども達は安心して勉強できていますし、給食も食べられています。たくさんの人々と繋いでくださいました。いつまでもその絆を宝物にします。ありがとうございます。



三浦 真／山梨県

(読売新聞)

私のはぐちゃんこと吉成洋拍さんと知り合ったのは、2009年から2010年にかけての寒い時期だったと記憶しています。当時はぐちゃんは屋台村で「サムライの台所」という居酒屋を営んでいました。ちよんまげのカツラをかぶってポツンと一人、カウンターに立つ店主。それがはぐちゃんでした。

この頃からすでに、あふれんばかりのアイデアで福島を盛り上げようという熱意が感じられました。「福島空港の名称を『ウルトラ警備隊空港』に変えてアピールしよう!」「福島の桃に女性用パンティーを履かせて全国にPRしよう!」など。私が「誰かに頼まれたの?」と聞くと、「いや、別に」とはぐちゃん。誰に頼まれたわけでもないのに、良い意味で「おせっかい」なのが魅力でした。

思えばその後の東日本大震災での炊き出しやこども食堂へつながっていく原点のようなものを感じます。ちなみに「桃のパンティー」のアイデアでは、後日、「パンティーで締め

付けられた部分から桃が傷んじゃうっていうから、あきらめたよ」と残念そうに話していました。

もう一つのはぐちゃんの魅力は、人と人をつなげ、人を巻き込んでいく力だと思います。私もサムライの台所に始まり、「gogo」へとお店が発展していく中で通い続け、多くの仲間と出会うことができました。私にとつてかけがえのない財産です。

今回、危篤だと知り、献血のため甲府から福島へ車を飛ばして駆けつけました。はぐちゃんに輸血されたかは分かりませんが、ほかにも多くの仲間が献血しました。結果的に、はぐちゃんと同じO型の血液を必要としている人のためには役立てたと考えるようにしています。突然の病に倒れ意識不明になっても、はぐちゃんは私たちに大切なことを教えてくれたような気がします。

はぐちゃんの意志は福島の仲間が継いでいってくれるでしょう。本当に全力で駆け抜けたような人生だったから、どうか天国にいる間くらいはゆっくり休んでください。

お疲れさまでした。ありがとうございます、はぐちゃん。



## ミカン／茨城県

とても明るい人柄で勇気をもらいました。

## ミナミシママモトコ

### 長野県（尚和寮）

初めてお会いしたのが、ひまわり甲子園。笑顔が素敵で熱い方でした。長野でのイベント長野五輪から2020東京五輪バイアスロン競技のレーザーライフル射撃体験を難しいといながら何度も打っていたことが記憶に残っています。職場のひまわりの種を贈呈し再会を誓い握手をしたこと忘れません。

はぐさんの想いを長野からも繋いでいきたいです！



## Mickey / NY (Ljpc)

ニューヨークで福島に関するストリートフェアがあり、チャリティーショーに参加。歌い終わった後にふらふらして、たくさんブースがある中、引き寄せられるように入ったブースにはぐちゃんがありました。そこで少し話しましたが、持ってくるはずの福島のワインが諸事情で持って来られず、だからこれをあげる！と頂いたのが木製の板。震災時の瓦礫から作ったものでした。

夏に日本に帰ったらお店に遊びに行きます！と宣言通りradio最終週に訪ねて行きました。あの笑顔で迎えていただき嬉しかったなあ。それからなぜかご縁が続き夏に帰福したら毎年会う時間を作ってくれて、短い時間だけお茶をしたり。街中でばったり会ったり。福島に根付いてまさに「我は福島なり吉成」の人でした。

ラジオの公開録音をしたいと問い合わせてたら、どうぞBIBIカフェを使ってくださいと言ってくれました。実現しなかったけれど。

正直共通の親しい友人がいる程度のお付き合いでしたが、出会った人は誰でもベストフレンドのように接してくれるはぐちゃんに、心癒された人

も多いのではないかなあ。

死んでもなおお葬式場でさえもみんなに感動を与え、そして人と人を繋いでくれる。自分が葬儀の主役で見送られる人のはずなのに一歩引いて仲間を見守ってるような印象でした。遠くアメリカからも通夜葬儀に参列できたようで、一緒に見送る事ができた気がします。まだ信じられないけどね。

年一で会って、しかも一緒に飲むでもなくご飯を食べるでもなく、お茶したり街ですれ違ったり、その程度のお付き合いの私でさえ今回ののはぐちゃん突然の訃報は衝撃が大きすぎてもだに深く落ち込んでしまう事があります。まだ信じられなくて定期的に葬儀のビデオを見に行ってしまう。ご家族や彼の仲間の悲しみ無念さを想い、少しでもみなさんの心が癒されますようにと朝に夕に祈っています。

そして私にもなにかできることがないか。考えるだけはなく、行動に起こせるよう、福島のためにできる事子供達のために出来ること。小さなことでもいいから続けていこうと強く思われます。

ご遺族の悲しみが少しでも癒されますようお祈りしています。



村田純子／南相馬市  
(NPO法人ほっと悠)

私が吉成さんとお会いしたのは、吉成さんがやっていらっしやる「BLTカフェ」ってどんな所???と思つてさりげなくお伺いしたのが最初です。その時には、笑顔で取材に応じている吉成さんがいらっしやいました。

その足で、「チームふくしま」さんの理事会の席に走り、依頼されていた、私がやっている障がい者と健常者が共に手を取り合つて働いている「ほっと悠」の話をさせていただきました。

その場には、先ほどいらつしやつた副理事長である吉成さんが、熱心に耳を傾けておりました。障がいを持った方々と一緒に働き、如何に彼らの環境を良くするか?!そして自立する為の給料をどの様に生み出すか?!と日々考えていた吉成さんの思いが、私にもピン

ピン響いてきました。

吉成さんは、あの底抜けに明るい笑顔で、愛情たっぷり障がいを持つたスタッフさん達を見守っていました。加えて、彼の天才的な発想は、私にこれからの福祉を変えていく人だあゝとの思いを強くさせたのです・・・そんな吉成さんが天国に逝かれ、私は主人を亡くした時同様にショックが大きかったです、しかし、障がい者に対する思いは私同様な吉成さんの魂は、私と一緒にだと思つて頑張ることにしました。

これからも吉成さんと一緒に障がい者の為に一生懸命汗する人生を歩みたいと思います。自分が亡くなった時には、あの世で待っている主人や吉成さんに良い報告をしたいなあ)

・・・合掌・・・

森口秀貴／福島市  
(くつろぎ納屋森のキッチン)

はぐさんのエフブノンイチ。トークテーマもその内容もぶつ飛んでる!って、びっくりしました!詳細はここでは書けませんけど(笑)ほんと、参加してよかったです。

子ども食堂ってどうなの?って相談あったと思つたら、もう始まつてるその行動力。本当に刺激になってます!憧れです!



盛田美紀子／佐賀県  
(唐津市立西唐津中学校)

私が初めて来福した時の事です。「ひまわりプロジェクト」に参加してくれて有難う!佐賀県から来てくれて有難う!と初対面の私に満面の笑顔で握手を求めに来てくださいました。

そして、理事会終了後の歓迎会で「一杯の豚汁」のお話を熱く語って下さいました。「だから、僕は頑張らなくちゃいけないですよ。盛田さんも一緒に頑張つて下さいね。ひまわりよろしくお願いしますね。」とおっしゃっていたことを今でも忘れません。

それからひまわり甲子園へ参加すると、毎回「盛田さくん!いらっしやうい。」と必ず声をかけて下さり、いつも固い握手をして、最後はハグしてお別れしていました。また、あの笑顔の吉成さんに会いに行こう、それまでひまわり頑張ろう!といつも思いながら佐賀まで帰っていました。

これから吉成さんのことを生徒たちにも伝えていきたいと思えます。吉成さん有難うございました。私は私のできることをやって、吉成さんから頂いた言葉や教えを大切にしていきたいです。

山田雅彦／福島市  
（NPO法人チームふくしま）

長野から福島に移住したとき、いろんなところで私が不安そうにしていたのかもしれない。「どんなことやってるの？」「困っていることはなない？」など、吉成さんが必ず声をかけてくれました。

福島の方々は、自分の事よりも、周りの方を気遣う人が多いですね。そういう人たちと生活したいなと思い、どうしても福島というところに来たかったんです。

吉成さんのお話されることは、自分が考えるよりもずっと先をいかれています。自分がどうこうではなく、考え方やものの捉え方なんかを教えてもらったなあと思います。

これまで、大切な時間を過ごさせてもらいました。これからやっていくことを「それいいね！」と吉成さんに言ってもらえるように、がんばっていきたいと思います。ありがとうございます。



YOU／大阪府（ロックバンドおかん）

一度ライブで伺った際に進路に迷う高校生の男の子を連れて行った事がありました。

当時吉成さんは agato をされていて、「そのままその男の子を置いて帰ってよー！」って言うのでそのまま置いて帰ったのですが、彼は翌日人生はじめてのヒッチハイクで生き生きして帰った後、色んなことに自らチャレンジする生き方を見つけました。一晩でここまで人の人生を変えてしまうのかと驚かされました。

夏の暑い日。吉成さんがツアーメンバーを連れて川へ遊びに行こう！と連れて行ってくれました。

結構深い川でみんなで飛び込んで遊んでいるのを眺めながら吉成さんが一言「ここで飛び込むの最高っしょー！！まあ毎年何人か死んでんだけどねー！！はははははは！！」って恐ろしい笑い声をあげてはりました。

コロナでライブが無くなった後、1番に連絡をくれて色んなアイデアをくださいました。

「僕の名前とかうちのお店の名前から出さなくていいから役に立ててよ！」と言ってめちゃくちゃ投げ銭もしてくださって。

困った時はお互い様って吉成さんもお店大変だったでしょうに本当に頭の下がる思いでした。

吉成さんに笑われないように目一杯生きていきます。

百合子／福島県

高校生作、ゴッホのひまわりをはぐちゃんカーで、牧野まで運んでくださったり、笑顔で軽やかな行動力が凄いなど感じておりました。

はぐちゃんの側は、明るく、来福した学生さん達の元気がパワーアップしているように感じました。

福島ひまわり里親プロジェクトさんをきっかけにハグちゃんとともに過ごせたこと、感謝の気持ちでいっぱいです。





<吉成さんとのエピソード&メッセージを募集しています>

これまでご縁のあった皆さま、いつもありがとうございます。

今回、吉成さんとのエピソードを広く募集し、こちらの特別号でご紹介させていただきました。吉成さんを失った悲しみの中にある皆さまが、思い出を語ることで癒され、彼との思い出が誰かの生きる力になればと思ったからです。そして、いつも愛と優しさにあふれ、多くの方に影響を与えてきた吉成さんの想いを、これからも私たちは引き継ぎ、伝えていきたいと考えています。

家族や私たちも知らない、吉成さんとの思い出や吉成さんへの想いを、もしよかったらお送りください。いただいたものは、全てご家族の方へお渡しさせていただきます。また、今回の掲載以降にお送りいただいたメッセージも、何かしらの形でまとめる予定です。

メッセージは以下のURLまたはQRコードから、フォームで常時募集しております。

一度お送りくださった方も、思いついた時に気軽に何度でもお送りください。

皆さまからのメッセージをお待ちしております。どうぞよろしくお願いいたします。

▶ <https://forms.gle/3q8SM1FHqqg66wCS8>





# 新聞掲載

(一部抜粋)

## 静岡の里親からヒマワリ1500粒

### 福島の老人施設に届く



田中施設長(右)にヒマワリの種を手渡す(左から)安藤優さん、安藤優さん、吉成さん

兄 安藤さん「花見にきたい」  
弟 安藤さん「花見にきたい」  
福島で咲いたヒマワリ、まわり里親プロジェクト。日、岡崎から訪れた里親の種を全国で育て返す。静岡岡崎で、親の手で福島の里親に届けてほしい。福島の里親へ届けた種が二十八、介護老人保健施設ケア

タワシひまわりと届けられた。  
来県したのは静岡県沼津で美容室を経営する安藤優さん、安藤敬さん(右)の双子の兄弟。昨年、岡崎でプロジェクトへの参加を呼び掛けられた知人から、育てたヒマワリの種約千五百粒を手渡された。プロジェクトの理事を務める吉成洋治さんとともに岡崎を訪ね、田中隆士施設長に手渡した。

2012年5月31日(福島民報)

# 福島ひまわり里親プロジェクト

## 中学公民の副読本に採用

### 絆の広がり期待

本報の支援活動がきっかけで、福島の里親プロジェクトが、中学公民の副読本に採用された。福島の里親プロジェクトが、中学公民の副読本に採用された。福島の里親プロジェクトが、中学公民の副読本に採用された。



### NPO法人チームふくしま

制作した絵本などを手に、副読本への掲載を喜ぶNPO法人チームふくしまのメンバー

プロジェクトは、岡崎を産んだ「絆」の物語を、全国の各地で育て返す。福島の里親プロジェクトが、中学公民の副読本に採用された。福島の里親プロジェクトが、中学公民の副読本に採用された。

### 「里親」全国で10万人超

現在、全国の里親は10万人を超えている。福島の里親プロジェクトが、中学公民の副読本に採用された。福島の里親プロジェクトが、中学公民の副読本に採用された。

2013年10月5日(福島民友)



## 里親集い交流

福島の里親集い交流。福島の里親プロジェクトが、中学公民の副読本に採用された。福島の里親プロジェクトが、中学公民の副読本に採用された。

2013年3月31日(福島民報)

### ひまわり里親事業描く復興コミック出版祝う

福島の里親プロジェクトが、復興コミックを出版した。福島の里親プロジェクトが、復興コミックを出版した。

2014年5月18日(福島民報)

### 復興大使 全国訪問

沖縄班 一緒に頑張りたい 震災の記憶伝える 不屈の魂で再生を

### 絆

絆の広がり期待

### ヒマワリ大切に育てて

ふくしま応援ニュース

### あすへ

東日本大震災

### 震災被災地かける思い

### ナンクルナイサで福島も頑張る

### 復興大使来県 支援に感謝

2013年1月9日(沖縄タイムス)

### 絆

絆の広がり期待

2013年1月9日(福島民報)

2015年10月31日(河北新報)



# 聖火リレーを 美しい古里で

## 県内各地で道路清掃



福島の歩道を清掃する双葉署員＝富岡町



福島交通線沿いで清掃活動するカフェスタッフ＝福島市

# 「59未来プロジェクト」始まる

福島県各地域に「59未来プロジェクト」がスタートした。このプロジェクトは、福島県内各地域に点在する「59」の店舗を、地元の人材で運営し、地域活性化を図ることを目的としている。プロジェクトの発起人は、福島県内各地域に点在する「59」の店舗を、地元の人材で運営し、地域活性化を図ることを目的としている。

2017年8月18日  
(福島民報)



# ヒマワリ囲まれ笑顔

## 田村でフェス 3万本が見頃



田村でフェス 3万本が見頃

田村町の田村公園で、今年も「ヒマワリフェス」が開催された。今年も約3万本のヒマワリが咲き誇り、多くの人で賑わった。

# 3組結婚式 来場者祝福

田村町の田村公園で、今年も「ヒマワリフェス」が開催された。今年も約3万本のヒマワリが咲き誇り、多くの人で賑わった。

# プロジェクトを再開する

「福島ひまわり里親プロジェクト」を再開している。種を販売し、育て、種を採る個人や団体を募集している。

# 特別賞 チームふくしま

「福島ひまわり里親プロジェクト」を再開している。種を販売し、育て、種を採る個人や団体を募集している。

「福島ひまわり里親プロジェクト」を再開している。種を販売し、育て、種を採る個人や団体を募集している。

「福島ひまわり里親プロジェクト」を再開している。種を販売し、育て、種を採る個人や団体を募集している。

「福島ひまわり里親プロジェクト」を再開している。種を販売し、育て、種を採る個人や団体を募集している。

「福島ひまわり里親プロジェクト」を再開している。種を販売し、育て、種を採る個人や団体を募集している。

# 福島支援を ヒマワリで



被災者を支援する花

東北大震災被災地の復興を支援する。被災者を支援する花

被災者を支援する花

被災者を支援する花

被災者を支援する花

被災者を支援する花

被災者を支援する花

被災者を支援する花

被災者を支援する花

被災者を支援する花

被災者を支援する花

被災者を支援する花

被災者を支援する花

被災者を支援する花

被災者を支援する花

被災者を支援する花

被災者を支援する花

被災者を支援する花

被災者を支援する花

被災者を支援する花

被災者を支援する花

被災者を支援する花

被災者を支援する花

被災者を支援する花

被災者を支援する花

被災者を支援する花

被災者を支援する花

被災者を支援する花

被災者を支援する花

被災者を支援する花

被災者を支援する花

被災者を支援する花

被災者を支援する花

被災者を支援する花

被災者を支援する花

被災者を支援する花

被災者を支援する花

被災者を支援する花

被災者を支援する花

被災者を支援する花

被災者を支援する花

被災者を支援する花

被災者を支援する花

被災者を支援する花

被災者を支援する花

被災者を支援する花

被災者を支援する花

被災者を支援する花

被災者を支援する花

被災者を支援する花

被災者を支援する花

被災者を支援する花

被災者を支援する花

被災者を支援する花

被災者を支援する花

被災者を支援する花

被災者を支援する花

被災者を支援する花

被災者を支援する花

被災者を支援する花

被災者を支援する花

2020年3月22日 (福島民報)

# ルワンダにマスク200人分



マリールイス代表に手渡す(右から)鈴木さん、吉成さん、山田さん

チームふくしまは、ルワンダにマスク200人分を寄付した。マスクは、ルワンダの子どもたちに配布された。

2021年2月23日 (福島民報)

# 取組が 次是誰かへ恩送り

福島市東のハンバカシ「かきん」。かきんは、福島市東のハンバカシ「かきん」。

2021年6月2日 (福島民報)

2017年12月8日 (福島民報)

# チームふくしま副理事長 故吉成 洋拍さんの夢



子ども食堂などを展開し、福島に思いを寄せ続けたチームふくしまの吉成さん(中央)。右端は半田さん

「悲しむばかりは、書害の費用にも積極的

いられない。彼が思いでカマエで雇って

描いた夢を、彼が思いでカマエで雇って

描いた夢を、彼が思いでカマエで雇って

描いた夢を、彼が思いでカマエで雇って

描いた夢を、彼が思いでカマエで雇って

描いた夢を、彼が思いでカマエで雇って

描いた夢を、彼が思いでカマエで雇って

描いた夢を、彼が思いでカマエで雇って

描いた夢を、彼が思いでカマエで雇って

描いた夢を、彼が思いでカマエで雇って

描いた夢を、彼が思いでカマエで雇って

描いた夢を、彼が思いでカマエで雇って

描いた夢を、彼が思いでカマエで雇って

描いた夢を、彼が思いでカマエで雇って

描いた夢を、彼が思いでカマエで雇って

描いた夢を、彼が思いでカマエで雇って

描いた夢を、彼が思いでカマエで雇って

描いた夢を、彼が思いでカマエで雇って

描いた夢を、彼が思いでカマエで雇って

描いた夢を、彼が思いでカマエで雇って

描いた夢を、彼が思いでカマエで雇って

描いた夢を、彼が思いでカマエで雇って

描いた夢を、彼が思いでカマエで雇って

描いた夢を、彼が思いでカマエで雇って

描いた夢を、彼が思いでカマエで雇って

描いた夢を、彼が思いでカマエで雇って

描いた夢を、彼が思いでカマエで雇って

描いた夢を、彼が思いでカマエで雇って

# 人に優しいまち 仲間引き継ぐ

# 子ども食堂で提供者 冷凍カレー開発へ

冷凍カレーを開発する。子ども食堂で提供する冷凍カレーを開発する。

2021年5月31日 (福島民報)



# About HUG

- 1971年 10月23日 福島県福島市で誕生
- 1990年 福島県立福島東高等学校 卒業  
テキサスA&M大学連携校 入学
- 2009年 福島県福島市で2000人規模のイベント ふくしま夢学園文化祭開催  
ふくしま屋台村「サムライの台所」オープン。講演「仕事のココロ得」講師
- 2010年 ふくしま屋台村「ONE PIECE」オープン(改名)
- 2012年 2012年ふくしま復興大使 優秀作品賞 受賞  
「とんかつDining&Chotbar agato」オープン(移転、改名)
- 2013年 「CafeDining agato」オープン(移転、改名)
- 2014年 「CafeDining agato」閉店 / 株式会社フレッシュ 常務取締役復帰
- 2015年 那須に「森のエステ美容室」オープン(現在は閉店)
- 2017年 「breath Pizza」 オープン(のちに改名) →障がい者雇用開始
- 2018年 理容師免許取得 / 「BLTカフェ」オープン / 福島市障がい者雇用推進企業認定
- 2019年 BLTカフェにて「お互い様の街ふくしま」開始  
→無料でハンバーガーを食べることができる仕組みをつくる
- 2020年 「BLT子ども食堂」活動開始
- 2021年 「みんなの食糧庫」稼働 / 福島市子ども食堂マイスター認定  
福島市マリッジサポーター登録  
5月12日 永眠



## 書籍

- ▶「百人百話〈第2集〉— 時は、残酷なまでに立ち止まろうとはしない。」  
(著:岩上 安身/三一書房/2014年)  
第52話『親父の家業を継いで』

- ▶「ひまわりが咲くたびに“ふくしま”が輝いた!」  
(ごま書房新社/2017年)  
公式通販サイトからも購入いただけます  
<https://himawaritane.official.ec/>



- ▶コミック「福島ひまわり里親プロジェクト 物語 チームふくしまの軌跡」  
(株式会社インフィニティ/2018年)  
現在、WEBで無料公開しており、  
スマホ等でもご覧いただけます  
<https://bit.ly/3iNdzmw>



## 動画

- ▶【東日本大震災福島ドキュメンタリー2020】  
「15歳、福島で何を考える  
～輝く未来は僕の手にも～」より  
<http://youtu.be/RLAfGYPspRQ&t=27s>



- ▶吉成洋拍(はぐちゃん)ありがとう  
(お通夜・壮行会・葬儀・出棺)  
<https://bit.ly/3q7TEAv>



## NPO法人チームふくしま 福島ひまわり里親プロジェクト

〒960-8055 福島県福島市野田町6-7-8ツインコートB103  
福島ひまわり里親プロジェクト事務局  
TEL : 024-563-7472 / FAX : 024-529-5794  
MAIL : [info@sunflower-fukushima.com](mailto:info@sunflower-fukushima.com)  
HP : <https://www.sunflower-fukushima.com/>

ブログ <https://ameblo.jp/sunflower-fukushima/>

Facebook <https://www.facebook.com/fukuhimawari311>

Instagram <https://www.instagram.com/fukuhimawari311/>

Twitter <https://twitter.com/fukuhimawari311>

